



富竹中だより

甲府市立富竹中学校
学校だより第6号
令和5年9月8日
文責 深澤 勉

全国学力・学習状況調査の結果について

令和5年度全国学力・学習状況調査が、全国の小学6年生と中学3年生を対象として実施されました。本校でも3年生が、4月18日（火）に参加しました。



この調査は、教科に関する問題（国語・数学・本年度は英語）と学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸問題等に関する質問紙調査に分かれています。教科に関する調査では、①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や実生活において不可欠であり常に活用できることが望ましい知識・技能を問う問題、②知識・技能を活用する力や課題解決のための構想を立て、実践し評価改善する力を問う問題の2つを一体的に調査する内容となっています。この調査結果をもとに、本校の学力や学習状況を分析・把握し、各教科における成果や課題、生活状況の実態を明らかにすることで今後の指導の改善に役立てることを目的としています。中学校英語は4年ぶりの実施で、「話すこと」の調査は一人一台端末によるオンラインで実施しました。

昨年度、2学期からこの結果を役立たせるために文部科学省から7月末に結果が送付され、各教科担当が中心となって分析を行ってきました。また、この分析をもとに、富竹祭や新人戦の取組と並行して授業改善へ向けて取り組んでいるところです。つきましては、分析結果の概要を、取り急ぎお知らせいたします。3年生には個人票が配布されます。自己の結果を確認し、今後の学習に役立ててほしいと思います。1・2年生にも教科の授業改善や家庭学習の取組に生かしていくように活用していきます。

本校の状況

※「ほぼ同等」とは±5ポイントの範囲内にあることをいう

本校の平均正答率は、国語、数学、英語ともに全国平均と「ほぼ同等」の範囲内です。国語、英語の2教科はやや下回る結果となりましたが、数学は上回りました。山梨県全体の結果は、国語が継続して全国をやや上回り、数学、英語が全国をやや下回る結果となりました。昨年度の調査は国語、数学、理科でしたが、本校は3教科とも下回っていましたので、今回は少しうれしい結果になっています。各教科の詳細は、以下に記述しています。



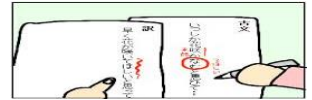
質問紙調査では、本校生徒の真面目さや素直さ、向上心の高さなどが顕著に表れる結果となりました。生徒と教師との良好な関係や授業に向かう生徒の前向きな姿勢も読み取れます。また、将来の目標を持ち、学校での学習が将来役に立つものであることを認識して努力している様子がみられます。3年間続いたコロナ禍や近年の異常気象による熱中症の危険など、様々な制限に囲まれている学校生活ですが、自ら計画的に学習を続け、規則正しい生活を送っている生徒が、全国・県に比較してとても多い点が、本校の特徴と言えます。学習に対する主体性や積極性が身につけてきたことが、落ち着いた学校生活の基盤となっているように思います。

一方、スマホやコンピュータの使い方、テレビゲームに費やす時間の長さについての課題が依然としてあることがわかりました。この点は、これからも家庭とのご協力をお願いしながら、引き続き取り組んでいく必要があります。

本校の主な成果と課題

★ 成果と課題

国 語



- 本校の国語の平均正答率は全国とほぼ同程度だが、県平均をわずかに下回っている。
- 「言葉の特徴や使い方に関する事項」「書くこと」については、県平均、全国平均ともに上回る結果となった。また、全体として無解答率が低いが、自分の考えをまとめたり、根拠を明確にして考えたりする設問の無解答率が高い結果となっている。しかし、この設問は、県、全国ともに無解答率が高い設問となっている。
- 「自分の考えが伝わる文章になるように根拠を明確にして書く」「文脈に即して漢字を正しく書く」「歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読む」ことの正答率は、県、全国ともに上回っている。
- △「我が国の言語文化に関する事項」「話すこと・聞くこと」「詠むこと」については、県平均、全国平均ともに下回る結果となった。
- △「古典の原文と現代語の文章とを対応させて内容をとらえる」「文章を読んで理解したことなどを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりする」ことの正答率は県、全国ともに下回っている。

★ 主な改善点

- ※「文章を読んで理解したことなどを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりする力」を身につけるために、本や文章などに、様々な立場や考え方が書かれていることを知り、自分の考えを広げたり深めたりし、出合った言葉を取り上げ、辞書にある様々な意味から文脈上の意味を捉えさせる学習を行う。
- ※「文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考える力」を育成するために、文章の構成や展開、表現にどのような工夫がなされているかを、根拠を明確にして自分の考えを書き、書いた文章を互いに読み合い、意見の交流を行うことで、考えを深める学習活動を行う。
- ※古文や漢文の基礎を復習し、音読や暗唱することを通して、古典の読解を深める学習を行う。
- ※文章に即して漢字を正しく書く力は良好であるので、引き続き、授業の中でも漢字のワークブックや小ドリルの活用などを継続して行い、言語能力の育成を図っていく。

数 学

★ 成果と課題

- 本校と山梨県・全国の平均正答率を比較すると、県平均に対して+3%、全国平均に対しても+2%となっている。区分別に見ると、数と式、図形ではやや低いものの、関数・データの活用では上回っており、特にデータの活用においては+20ポイントと非常に高くなっている。
- 評価の観点や問題形式の観点では、すべての項目で山梨県・全国平均を上回っている。選択式ではなく、短答式での正答率が高いことから、学力の定着が見込める。また、記述式でも「根拠」と「理由」を明らかにしながら授業に取り組んできた成果が見られる。
- データの活用については、2年次に時間をかけ、基礎からやり直した成果が出ている。また、1次関数の単元で比例・反比例の見直しをしたことも今回の結果につながっていると考えられる。
- △数と式や図形では基本的な知識や技能の習得ができていないことから、学習の継続や繰り返して学習することができていない可能性がある。
- △基礎的な知識や計算力を問われる問題や、説明することに対する正答率が低い。知識・技能が習得できていないのは、提出物や日々の家庭学習に継続性がないということが大きな理由の1つだと考えられる。



☆ 主な改善点

※授業では新しい単元に入る前に、既習事項の振り返りを丁寧にしつつ、理解を深めてから新たな知識の獲得や活用ができるように支援する。

※資料やデータを活用しながら説明ができるように、データの読み取りなどの基礎的な知識・技能の習得を基本とし、根拠と理由を明確にして説明するということを継続して行う。

※生徒自身の学習状況や学力を把握すること、そしてその状況に合った問題への取り組み方や学習の進め方を理解させ、知識・技能に加えて思考・判断・表現力の定着を目指して繰り返し学習に取り組ませていく。

☆ 成果と課題

英 語

○領域によっては全国や県平均を上回ったが、設問全体としては、全国や県平均よりやや低い正答率となった。基礎基本が身につけているところもあるものの、領域によっては基本の定着に課題が見られることを示している。一方、無回答率はとても低く、積極的に問題と向き合おうとしている学習への意欲が表れていると考えられる。

○「聞くこと」の領域では、「状況を描写する英語の聞き取り」や「話し手の最も伝えたい内容を聞き取り」に対する正答率が高い。

○「読むこと」の領域では、「書き手の伝えたいことを読み取る」問題に対する正答率が高い。

△全体的に、選択式の設問に関しては県平均を上回っているが、短答式・記述式と正答率が下がる傾向にある。

△「知識・技能」に関しては、県平均と同等だが、「思考・判断・表現」に関する問題において正答率が低い。

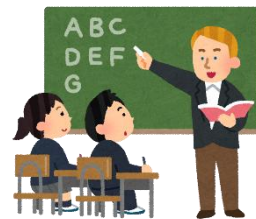
△「日常的な話題について、事実や自分の考えを整理し、まとまりのある文章を書く」問題の正答率が特に低い。

☆ 主な改善点

※「書くこと」「読むこと」の力をつけていくためには、語彙力や基本的な表現を身につけることが必要である。まずは授業で基本的な事項を確認し、繰り返し使う場面を設ける。そしてその定着のために、家庭学習を継続して行うという学習方法を確立するように支援を継続していく。

※自分の考えや感想などを英語で表現する活動を繰り返しながら、語句・言語材料・文の構成なども身につけられるような学習活動を行っていく。

※生徒自身が自分の課題を把握し、その解決に向けてどのように取り組むべきなのかを考える機会を作り、各自の課題解決のために継続して取り組んでいけるように支援する。



質問紙調査から見る本校生徒の主な特徴

質問紙調査は、学校や家庭における勉強や生活の様子について調査したものです。学習に対する興味関心・規範意識・自己有用感・生活習慣など項目別に調査します。本校の特徴は次のとおりです。

☆ 家庭生活や学校生活について

* 「毎日同じくらいの時刻に寝ている」「家で自分で計画を立てて勉強している」という質問に対し、「できている」と解答した生徒は全国や県と比較して、10%以上高い結果となった。これらから、本校生徒は比較的規則正しい生活を送っていると考えられる。

* 「人が困っているとき、進んで助ける」「学校に行くのは楽しい」「学級では互いの意見の良さを生かし、解決方法を決めている」との質問に対しても、同様に10%以上上回る結果となった。生徒の優しい面や素直さの表れと言える。

* 「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」の質問に「当てはまる」と答えた生徒は60%を超えていた



り、「自分にはよいところがあると思う」に「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」が80%を超えたり、「将来の夢や目標を持っている」生徒は50%以上いるなど、自己肯定感がしっかりと育っていることがうかがえる、「人の役に立つ人間になりたいと思う」と回答した生徒は、80%を超えており、自己有用感も高い傾向にある。

*「学級で話し合い解決方法を決める」「自分と違う意見について考えるのは楽しい」「先生はわかるまで教えてくれる」は全ての質問で90%を超え、全国平均を大きく上回っている。普段の授業や学級活動で、生徒が主体となり意欲的に学習に参加していることがわかる。市教委学力向上専門員の先生によれば、これは市内でトップの数値であり、自分で考え行動できる富竹中生の最も誇れる点である。

*「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」は90%近い生徒が肯定的な回答をしていたり、「困りごとは先生に相談できる」が80%近くであったりと、生徒と教師の信頼関係づくりや生徒会が中心となって取り組んできた『いじめ追放宣言』の成果である。

*「学校の授業以外に1日当たりどれくらいの時間勉強しているか」について、平日1時間以上の生徒は70%近く、休日1時間以上の生徒は80%近くおり、全国・県平均を大きく上回っている。



☆ 質問紙からの改善点

※家庭学習を計画的、継続的に行っている生徒が全国平均を上回っている。一人一台端末のeライブラリや学力向上ノートに毎日取り組んでいる成果が現れていると思われる。小中連携も図りながら、今後も継続していきたい。

※スマートフォン・SNS・ゲーム等の利用に課題がみられる。テスト期間ごとに実施しているNo TV・ゲーム・スマホ Dayを近隣小学校との連携も深め、家庭と協働して継続していきたい。

※今後も継続して「生徒の主体的な教育活動」に向け授業改善を進め、見通し、振り返りを意識づけ、生徒が自ら課題を見つけ、問題解決できるように、動き出したくなる課題を与えられるよう努める。また、様々な学習場面にICTを活用していくことで、楽しくわかりやすい授業づくりを目指す。さらに、授業と家庭学習がリンクする学習内容の改善を図る。

※様々な活動の中で、仲間と協力しながら小目標を達成しつつ、成功体験を重ねることによって自己肯定感や自己有用感を高めていく。

※コロナ禍のため地域の様々な活動に参加する場面が減ってきているが、可能な範囲で地域との連携を深める努力を図る。地域での存在感を感じさせ、地域の一員であることを意識させ、自分の住むこの地域に誇りを持ち、世界へ向けて発信し、グローバルな視点で地域の発展に関与させていく。また、地域防災におけるそれぞれの役割を理解し、すすんで自助・共助の行動ができる生徒の育成を図る。

家庭へのお願い

*多くの子どもたちは、学校生活や家庭生活が安定している様子がうかがわれます。自分に自信が持てるお子さんが増えてきています。今後も、ご家庭での団らんや励まし、ほめ言葉が、心の支えになるかと思えます。また、生活習慣と、学力との関係は深いものです。生活リズムを整え、親子で規則正しい生活の実践を引き続きお願いしたいと思います。

*家庭学習は、習慣化されてきているようです。学習時間を確保し、効果的な学習内容に取り組めるよう、毎年配布している「家庭学習の手引き」を活用してご支援していただきたいと思えます。また、『No TV・ゲーム・スマホ Day』の取り組みをテスト前の学習強化週間中をお願いしているところですが、読書を好きなお子様も比較的多くいます。読書と学力にも深い関係があることがわかっています。取り組み期間中でなくても、スマホを置き、テレビを消して、読書の時間を作っていただきたいと思えます。学校でも朝読書（毎朝10分間の読書）を継続していきます。

*コロナ禍の制限も徐々に緩和され、地域の活動も再開されつつあります。生徒が地域との関係を深める貴重な機会なので、参加可能な行事などがありましたら積極的に出席するようご指導ください。そのとき、できれば保護者の方も一緒に参加していただくとお子さんが地域と関わりやすくなると思えます。特に防災関連の取り組みにおいては、有事の際に中高生の若い力が大きな地域の支えになることを自覚させてください。地域に誇りを持ち、自分たちが将来この地域を守り、発展させていく精神を身につけさせたいと思えます。日常的に関われますようご協力をお願いします。



(分析協力：本田・竹内・石田)